

2020年7月15日

瀬谷駅でのドア誤作動に関する調査結果および再発防止策について

相模鉄道株式会社

相模鉄道(株) (本社・横浜市西区、社長・千原広司) では、2020年6月6日、相鉄線瀬谷駅において車両のドアが誤作動し、ホームと反対側のドアが開く事象が発生しました。

ご利用のお客さまには、大変ご迷惑とご心配をお掛けいたしましたこと、改めて心よりお詫び申し上げます。

弊社および車両を製造したメーカーによる調査で判明した原因と、調査結果を踏まえた再発防止策をまとめました。

詳細は下記のとおりです。

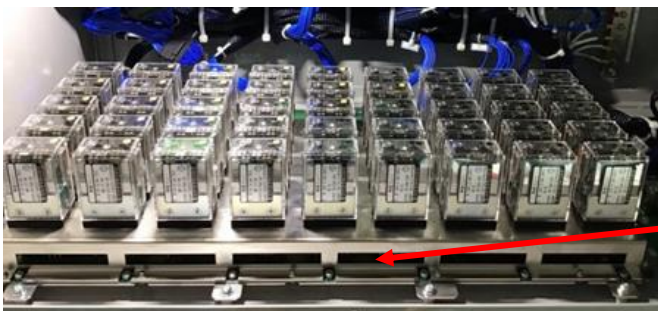
記

1. 当該車両

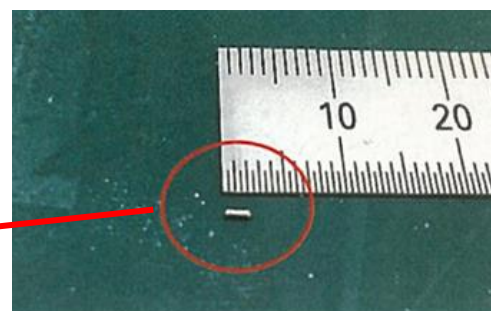
相鉄・JR直通線用車両「12000系」(12105×10編成・12105号車)

2. 誤作動の原因

メーカーと合同で、当該車両を調査した結果、ドアとホームドアを連動させて開ける装置の電気回路基板内から金属片(約2mm×φ0.65mm程度)を発見しました。これによりドアを開けるための電気回路が短絡され、本来は開くことのないホームと反対側のドアが開いたものです。



電気回路基板



電気回路基板内から発見された金属片
(約2mm×φ0.65mm程度)

3. 再発防止策

12000系全車両(6編成)に対して、以下の対策を実施し、再発を防止します。

(1) 緊急点検

当該車両を含む12000系全車両に対し、緊急点検を行い、電気回路基板内に異物の混入がないことを確認しました。

(2) 短期的対策

・異物の混入防止策

電気回路を内蔵する装置の開口部をふさぐことや、基板の隙間をカバーする事で、金属片など異物の混入を防止する対策を実施します。

- ・電気回路の安全性向上

車掌スイッチ（ドアの開閉を行うために車掌が扱うスイッチ）の「開ボタン」を操作しなければドアが開かないよう、回路の見直しを行います。

※誤作動を起こした車両には、短期的対策を実施済みです。今後他の車両についても8月中旬までに実施します。

(3) 長期的対策

当該の電気回路基板について、ドアを開閉するための回路と用途が異なる電気回路が隣接しないよう、回路の構成を見直すとともに、異物が混入しないよう設計を行った基板に交換します。

※長期的対策については、本年中に実施します。

以上

【参考】瀬谷駅でのドア誤作動の概要

1. 発生日時 2020年6月6日（土）8時38分頃
2. 発生場所 相鉄線瀬谷駅（横浜市瀬谷区瀬谷4-1-1）3番線
3. 状況
 - （1）2020年6月6日（土）8時38分頃、各駅停車 横浜行き(大和始発・12000系10両編成)は瀬谷駅3番線に定時に到着。車掌が停止位置を確認後、ホーム側のドアを開きました。
 - （2）お客さまの乗降終了後、車掌がホーム側のドアを閉じたところ、運転士知らせ灯（列車のドアがすべて閉じていることを運転士に知らせる表示灯）が点灯しませんでした。点検のため、車掌が再度ホーム側のドアを開閉しましたが、運転士知らせ灯は点灯しませんでした。
 - （3）車掌が車内の様子を確認したところ、ホームと反対側のドアが開いていることを発見、お客さまからも同様のお申し出があったため、防護無線（周囲の列車を緊急停止させる信号）を発報しました。同時に、線路上に転落したお客さまがいないことを確認しました。
 - （4）ご乗車されたお客さま（約70人）の中に怪我をされたお客さまはいらっしゃいませんでした。
 - （5）8時45分頃、お客さまに降車いただき、当該列車を運休しました。
 - （6）駅防犯カメラを検証したところ、瀬谷駅への到着と同時にホームと反対側のドアが開いていることが確認されました。

以 上